

シント・ニコラスがやって来る

♪sinterklaasje kom maar binnen met je knecht~

今年もシントさんが、アムステルダム日本人学校にやって来ます。

シントさんと言うのは、シント・ニコラス (Sint Nicolaas) のことで、A. D. 3～4世紀に今のトルコにあるミルナの司教として実在した人物でした。その昔、殺されそうになった子ども達を助けたという伝説から、子ども達の守護神として世界的に有名になりました。

また、お供のズワルトピットは、北アフリカの黒人でムーア人の王子の姿をしているようで、ユーモアたっぷりにプレゼントを配る姿は、子ども達から大変愛されています。

さて、12月4日にシントさんとズワルトピットが日本人学校にやって来てくださいます。毎年、シントさん達は、体育館いっぱいに飾られた似顔絵や飾り、子ども達の出し物を見て、大変感激してくれるそうです。そして、最後には、一生懸命に頑張った子ども達に、ピットからプレゼントやペパーノーチェ (Pepernootjes) と呼ばれるお菓子がたくさん配られます。子ども達は今から、この日を楽しみにしています。

☆ 当日は、保護者の方もギャラリーから参観することができます。

尚、当日のシントさんの来校時間は、シントさんの都合により、変更になることがあります。変更が前日までに分かれば、子ども達を通してお知らせしますが、当日の変更の場合は、お知らせできませんので、予めご了承ください。

<4日の予定>

13:30	シント・ニコラス、ズワルトピット来校
13:40～15:00	シント・ニコラス祭 (体育館)

シント・ニコラスの祭り

「シント・ニコラス」その人は、シント・マルティンよりもやや早く西暦200年後半から300年にかけてトルコの方面で宗教活動に入った人物です。

裕福な家に生まれた彼は、両親の死後、その財力を神の教えを広めるためにたまたま寄港した船に掛け合っただけの穀物ももらったところ、分けてもらった穀物はいくら使っても決して減ることがなく街の人たちの飢餓を癒し、一方、船がローマに到着して積荷を確認してみると分けてあげたはずの穀物は少しも減っていなかったという逸話が伝えられています。

こうした言い伝えから広くヨーロッパでは船乗りと商人の守護聖人として、信仰を集め、特に貿易で栄えたアムステルダムでは、街の守護者としてあがめられてまつられてきました。アムステルダム中央駅前の広場に面して立つシント・ニコラス教会はまさにその象徴です。

彼の逸話がもう一つ。ある没落貴族に3人の娘がいたのですが、生活に困り果てた主人は上の娘を娼婦にして生計を立てようとしていました。これを知ったシント・ニコラスが夜そっとその娘の部屋に金貨を置いてきたおかげで、その娘はこれを持参金に幸せな結婚をすることができました。懲りないその主人はその後も次女、三女に同じ仕打ちをしようとしていましたが、結果はおわりの通りです。逸話では3度目にしてその貴族もようやくにして目が覚めたということになっているそうです。そして金貨を置いたところが干してあった靴下の中だったそうです。

こうした逸話の影響で、オランダでは12世紀くらいからシント・ニコラスの12月6日は子どもの祝日になり、その後、近世になってスペインからの独立を果たし、黄金時代を迎えたオランダでは景気の良いお祭りとして盛大に祝われるようになりました。